

日本史コース 自学・自習研究のテーマ

新入生 (留年生含む)

I、学習テーマ設定の趣旨、及び求めたい学習の成果や目標について

4月からの約1ヵ月は、新たな環境に慣れ、改めて学問に向き合う準備期間にあたります。しかし、今年は、震災の影響のために、その期間が十分にとれません。そのため、自分が興味を持つ時代の人物や事件について、自分で様々な文献を読み、その内容をレポートとしてまとめてもらいたいと思います。高校の教科書の内容を出発点として、きちんとした文献を読んでまとめて欲しいと思います。自ら興味があることを調べ、まとめることを通じて、自ら学ぶことを基本とする大学の勉強の出発点としたいと思います。

II、学習テーマの内容について

- ・以下の①～④から選択した内容からレポートを作成して提出してください。

下記の担当は、それぞれのテーマを担当する先生です。質問等ある場合には、Eメールで先生のアドレスに送って下さい。

①奈良～鎌倉時代の人物・事件

担当：小此木輝之 メールアドレス：t_okonogi@mail.tais.ac.jp

担当：三浦龍昭 メールアドレス：t_miura@mail.tais.ac.jp

②南北朝時代から安土桃山時代の人物・事件

担当：佐々木倫朗 メールアドレス：m_sasaki@mail.tais.ac.jp

③江戸時代の人物・事件

担当：坂本正仁 メールアドレス：m_sakamoto@mail.tais.ac.jp

④明治期の日本外交に関わる人物・事件

担当：堀口修 メールアドレス：o_horiguchi@mail.tais.ac.jp

III、テーマ学習の方法

第1段階：第一週 … 調べる事項の決定・検索(リサーチ)

- ・調べる内容の高校の教科書の叙述の確認 … 調べる内容の確認・絞り込み
- ・大学・地域の図書館や本屋で、調べる内容に関する文献を集める

※インターネットは、文献を調べることには非常に便利ですので、文献や史料について調べる時には用いても良いと思います。しかし、その hp を読んだだけとか、コピー等は今後の学習につながっていかないため、行わないようにしてください(厳禁)。

第2段階：第一週の後半から第二週 … 文献を読みこなす

- ・集めた文献を読む。
※精読を心がけること
- ・文献の内容のポイントをメモする。 … 事件や人物の事蹟等の重要事項・疑問点

- ※複数の文献を読んだ場合には、叙述の違いや作者の意図をメモする。
- ・ 読んだ文献の参考文献・註等から参考となる文献・史料を検索

第3段階：第三週以降 …… 具体的なレポートの作成

- ・ ポイントの整理
第二段階で作成したメモの確認
→ 自分なりの理解・説明・解説のための整理 …… 疑問点等も活用
→ 自分の書く文章(レポート)用のメモ作成
- ・ レポートを書く
メモを参考にしながら、執筆する。
※自分なりに読んだ・得た内容＝情報を整理(分析)し、自分なりにまとめること(叙述・発表・公開)は、社会に出た後も求められる重要な事柄ですので、慣れなくとも、必ず自分で行ってください。

◎一度書き上げたものを読み直し、無駄なところは削除し、足りない部分を補足する

IV、レポートの指示

- ・ 2000字(パソコン可、自筆の場合は、400字詰め原稿用紙で5枚)
必ず表紙を付けて、ホチキス等で綴じ、学年・学籍番号・名前を明記すること
- ・ 設定したテーマを明記する
- ・ 参考にした文献を必ず明記する
- ・ 「歴史基礎ゼミナール」の評価参考とする。
- ・ 提出日：平成23年5月9日 歴史文化閲覧室262

※留年している学生は、自分の春学期における学年に対応する課題を提出して下さい。

※この課題全般に関する問い合わせ・質問等は、佐々木倫朗(m_sasaki@mail.tais.ac.jp)までお問い合わせ下さい。

※このことについて、直接大学にきて相談など受けたい人は、

テーマ①②については4月6日午前10時から10号館3階1032教室

テーマ③④については4月6日午前11時から10号館3階1032教室

まで来てください。

説明に来られなかったり、個別に質問がある場合には佐々木(m_sasaki@mail.tais.ac.jp)または、テーマの担当の先生までメールで問い合わせして下さい。

◎自学・自習研究のテーマ以外の質問・相談については、学科の学生生活担当の先生でも受け付けます。メールで問い合わせるか、または以下の相談日に2号館6階に来て下さい。

原 芳生 メールアドレス：yoshio_hara@mail.tais.ac.jp

白木太一 メールアドレス：t_shiraki@mail.tais.ac.jp

相談日 原 先生 4月5日(火)・11日(月) 午後1時～3時

白木先生 4月7日・14・21日(木) 午後1時～3時

新2年生(留年生含む)

I、学習テーマ設定の趣旨、及び求めたい学習の成果や目標について

本来であれば4月からは、基礎的なことから一歩進んで、専門的な知識を学ぶ段階に入る時期です。しかし、3月に発生した震災は、大きな影響を日本の社会や世界全体に与えています。専門的なことを学ぶことも重要ですが、社会で生きていく上で、広い視野を持って社会のことを考えることは重要なことであり、今こそ一人一人の日本人が考えなければならないことであると思います。そのため、大災害や社会的な救済活動に関する日本史上の事柄について、史料や様々な文献を読み、その内容や思うことをレポートとしてまとめてもらいたいと思います。歴史に学びながら現代を考える基礎としたいと思います。

II、学習テーマの内容について

- ・以下の①～⑥から選択した内容からレポートを作成して提出してください。

下記の担当は、それぞれのテーマを担当する先生です。質問等ある場合には、Eメールで先生のアドレスに送って下さい。

①行基の活動

担当：佐々木倫朗 メールアドレス：m_sasaki@mail.tais.ac.jp

②光明皇后と施薬院・悲田院

担当：佐々木倫朗 メールアドレス：m_sasaki@mail.tais.ac.jp

③忍性と極楽寺

担当：三浦龍昭 メールアドレス：t_miura@mail.tais.ac.jp

④浅間山の噴火

担当：坂本正仁 メールアドレス：m_sakamoto@mail.tais.ac.jp

⑤天明の大飢饉

担当：坂本正仁 メールアドレス：m_sakamoto@mail.tais.ac.jp

⑥関東大震災

担当：堀口修 メールアドレス：o_horiguchi@mail.tais.ac.jp

※また①～⑥以外の日本史の災害や救済活動に関するテーマ(身近な例等)でレポートを書きたいと思う人は、佐々木 (m_sasaki@mail.tais.ac.jp)まで連絡して下さい。

III、テーマ学習の方法

第1段階：第一週

... 調べる事項の決定・検索(リサーチ)

- ・調べる内容の高校の教科書・資料集の叙述の確認 ... 調べる内容の確認・絞り込み
- ・大学・地域の図書館や本屋で、調べる内容に関する文献を集める

※インターネットは、文献を調べることには非常に便利ですので、文献や史料について調べる時には用いても良いと思います。しかし、その hp を読んだだけとか、コピー等は今後の学習につながっていかないため、行わないようにしてください(厳禁)。

第2段階：第一週の後半から第二週 ... 文献を読みこなす

- ・集めた文献を読む。

※精読を心がけること

- ・ 文献の内容のポイントをメモする。 … 事件や人物の事蹟等の重要事項・疑問点
※複数の文献を読んだ場合には、叙述の違いや作者の意図をメモする。
- ・ 読んだ文献の参考文献・註等から参考となる文献・史料を検索

第3段階：第三週以降 … 具体的なレポートの作成

- ・ ポイントの整理
第二段階で作成したメモの確認
→ 自分の理解・説明・解説のための整理 … 疑問点等も活用
自分なりの考えの整理
→ 自分の書く文章(レポート)用のメモ作成
- ・ レポートを書く
作ったメモを参考にしながら、執筆する。
※自分なりに読んだ・得た内容＝情報を整理(分析)し、自分なりにまとめること(叙述・発表・公開)は、社会に出た後も求められる重要な事柄ですので、慣れなくとも、必ず自分で行ってください。

◎一度書き上げたものを読み直し、無駄なところは削除し、足りない部分を補足する

IV、レポートの指示

- ・ 2000字(パソコン可、自筆の場合は、400字詰め原稿用紙で5枚)
必ず表紙を付けて、ホチキス等で綴じ、学年・学籍番号・名前を明記すること
- ・ 設定したテーマを明記する
- ・ 参考にした文献を必ず明記する
- ・ 日本史コースの基礎研究分野科目の評価参考とする。
- ・ 提出日：平成23年5月9日 歴

史文化閲覧室262

※留年している学生は、自分の春学期における学年に対応する課題を提出して下さい。

この課題全般に関する問い合わせ・質問等は、佐々木倫朗(m_sasaki@mail.tais.ac.jp)までお問い合わせ下さい。

※このことについて、直接大学にきて相談など受けたい人は、

テーマ①～③については4月7日午前10時30分から10号館3階1032教室

テーマ④～⑥については4月7日午後1時30分から10号館3階1032教室

まで来てください。

説明に来られなかったり、個別に質問がある場合には佐々木(m_sasaki@mail.tais.ac.jp)または、テーマの担当の先生までメールで問い合わせして下さい。

新3年生(留年生含む)

I、学習テーマ設定の趣旨、及び求めたい学習の成果や目標について

本来であれば、4月より1・2年生で学んだ知識や学問的手法を踏まえて、より専門的な学習の段階に入る時期です。しかし、今年は、震災の影響のために、その期間が十分にとれません。そのため、専門的な研究・学習に入っていくことを補うために、専門演習の第一テーマとして選択した内容について、自分で興味のある内容を設定し、研究論文や専門書等の文献を読み、その内容をレポートとしてまとめてもらいたいと思います。

II、学習テーマの内容について

- ・以下の①～⑨から選択した内容からレポートを作成して提出してください。

下記の担当は、それぞれのテーマを担当する先生です。質問等ある場合には、Eメールで先生のアドレスに送って下さい。

※担当の先生から、個別の指示がある場合があります。その場合には、担当の先生の指示に必ず従って下さい。

①平安・鎌倉時代の人物と文化

担当：小此木輝之 メールアドレス：t_okonogi@mail.tais.ac.jp

②南北朝・室町時代の政治と人物

担当：三浦龍昭 メールアドレス：t_miura@mail.tais.ac.jp

③戦国・織豊期の政治と社会

担当：佐々木倫朗 メールアドレス：m_sasaki@mail.tais.ac.jp

④戦国大名と徳川家康論

担当：宇高良哲 メールアドレス：y_udaka@mail.tais.ac.jp

⑤江戸幕府の制度

担当：坂本正仁 メールアドレス：m_sakamoto@mail.tais.ac.jp

⑥明治時代の政治・外交史

担当：堀口修 メールアドレス：o_horiguchi@mail.tais.ac.jp

⑦地理学的方法・西洋史研究からの日本史

担当：原芳生 メールアドレス：yoshio_hara@mail.tais.ac.jp

担当：白木太一 メールアドレス：t_shiraki@mail.tais.ac.jp

⑧埋蔵文化財研究

担当：安藤孝一 メールアドレス：k_ando@mail.tais.ac.jp

⑨古代文化の研究 - 飛鳥～奈良時代 -

担当：塚田良道 メールアドレス：y_tsukada@mail.tais.ac.jp

III、テーマ学習の方法

第1段階：第一週

… 調べる事項の決定・検索(リサーチ)

- ・調べる内容の確認 … 調べることの確認・絞り込み
- ・大学・地域の図書館や本屋で、調べる内容に関する史・資料や文献を集める

※hpを読んだだけとか、コピペ等は厳禁

◎文献等を収集する場合には、必ず専門書・研究論文を集めること

第2段階：第一週の後半から第二週 … 文献を読みこなす

- ・集めた史・資料や文献を読む。
※精読を心がけること
- ・史・資料や文献の内容のポイントをメモする。 … 重要事項・疑問点
※叙述の違いや作者の意図をメモする。
- ・読んだ文献の参考文献・註等から参考となる文献・史料を検索

第3段階：第三週以降 … 具体的なレポートの作成

- ・ポイントの整理
第二段階で作成したメモの確認
→ 自分なりの理解・説明・解説のための整理 … 疑問点等も活用
→ 自分の書く文章(レポート)用のメモ作成
- ・レポートを書く
メモを参考にしながら、執筆する。

◎一度書き上げたものを読み直し、無駄なところは削除し、足りない部分を補足する

IV、レポートの指示

- ・2000字(パソコン可、自筆の場合は、400字詰め原稿用紙で5枚)
必ず表紙を付けて、ホチキス等で綴じ、学年・学籍番号・名前を明記すること
- ・設定したテーマを明記する
- ・参考にした文献を必ず明記する
- ・「専門演習」の評価参考とする。
- ・提出日：平成23年5月9日 歴史文化閲覧室262

※留年している学生は、自分の春学期における学年に対応する課題を提出して下さい。

この課題全般に関する問い合わせ・質問等は、佐々木倫朗(m_sasaki@mail.tais.ac.jp)までお問い合わせ下さい。

新4年生(留年生含む)

1、学習テーマ設定の趣旨、及び求めたい学習の成果や目標について

4年生は、3年生時に提出した卒業論文のテーマを応用研究を通じて卒業論文の作成に準備している時期にあたっており、各学生が個々のテーマについて、より深く検討していくことが、春学期は求められます。そのため、研究書・論文、関係史料・資料の収集・分析を通じて研究しをまとめ、問題点を指摘するレポートの作成をしてもらいたいと思

ます。レポート作成を通じて、各自が論文の位置づけを論理的に説明することができることを目標としたいと思います。

II、学習テーマの内容について

- ・卒業論文のテーマに関する研究書・論文等の専門的文献の収集と分析
- ・卒業論文のテーマに関する史料・資料の収集と分析
- ・以上の2点を踏まえ、論文テーマに関するレポートを作成する
質問等ある場合には、指導の先生のEメールで先生のアドレスに送って下さい。
※担当の先生から、個別の指示がある場合があります。その場合には、担当の先生の指示に必ず従って下さい。

小此木輝之	メールアドレス：t_okonogi@mail.tais.ac.jp
三浦龍昭	メールアドレス：t_miura@mail.tais.ac.jp
佐々木倫朗	メールアドレス：m_sasaki@mail.tais.ac.jp
宇高良哲	メールアドレス：y_udaka@mail.tais.ac.jp
坂本正仁	メールアドレス：m_sakamoto@mail.tais.ac.jp
堀口修	メールアドレス：o_horiguchi@mail.tais.ac.jp
原 芳生	メールアドレス：yoshio_hara@mail.tais.ac.jp
白木太一	メールアドレス：t_shiraki@mail.tais.ac.jp
安藤孝一	メールアドレス：k_ando@mail.tais.ac.jp
塚田良道	メールアドレス：y_tsukada@mail.tais.ac.jp

III、テーマ学習の方法

第1段階：第一週 … 検索(リサーチ)

- ・卒業論文のテーマの確認
- ・大学・地域の図書館や本屋で、調べる内容に関する史・資料や文献を集める
※hpを読んだだけとか、コピペ等は厳禁

◎文献等を収集する場合には、必ず専門書・研究論文を集めること

第2段階：第一週の後半から第二週 … 史料や文献を読みこなす

- ・集めた史・資料や文献を読む。
- ・史・資料や文献の内容のポイントをメモする。 … 重要事項・疑問点
※叙述の違いや作者の意図をメモする。
- ・読んだ文献の参考文献・註等から参考となる文献・史料を検索

第3段階：第三週以降 … 具体的なレポートの作成

- ・ポイントの整理
第二段階で作成したメモの確認
→ 自分なりの理解・説明・解説のための整理 … 疑問点等も活用

- 自分の書く文章(レポート)用のメモ作成
- ・ レポートを書く
メモを参考にしながら、執筆する。

◎一度書き上げたものを読み直し、無駄なところは削除し、足りない部分を補足する

IV、レポートの指示

- ・ 2000字(パソコン可、自筆の場合は、400字詰め原稿用紙で5枚)
必ず表紙を付けて、ホチキス等で綴じ、学年・学籍番号・名前を明記すること
- ・ 設定したテーマを明記する
- ・ 参考にした文献を必ず明記する
- ・ 「応用研究 A」の評価参考とする。
- ・ 提出日：平成23年5月9日 歴史文化閲覧室262

※留年している学生は、自分の春学期における学年に対応する課題を提出して下さい。

この課題全般に関する問い合わせ・質問等は、佐々木倫朗(m_sasaki@mail.tais.ac.jp)までお問い合わせ下さい。

歴史学科東洋史コース 自学・自習課題テーマ

新入生

I. 学習テーマと到達目標

5月からの授業の準備期間として3週にわたり自学・自習を課題とする。

中国の歴史は現代まで連綿と続く悠久の流れをもつが、社会経済や文化の上でわが国をはじめ周辺の地域に多大な影響力を与えた。中国の歴史を知るとはアジア世界の原型を理解することにもつながる。本コース「歴史基礎ゼミナール(東洋史1)」(春学期)の導入として、中国の歴史の流れを確認し興味ある時代について学習することにより、東洋史の全体像をとらえることができる。広い視野に立った歴史の見方、アジア史への眼差の修得を目標とする。

II. 学習テーマの内容

- ・ 中国史・東洋史に関する文献を読む。
- ・ 特に興味をもった時代に関して、テーマを設定する。
- ・ 設定したテーマについて、文献を調べレポートを作成する。

III. テーマ学習の方法

第1週 文献を集める

- ・ 高校『世界史』の教科書から中国史・アジア史に関するテーマを一つ考える。
- ・ そのテーマが中国史・アジア史のなかでどのように位置づけられるかを確認する

- ・大学・地域の図書館などでテーマに関する文献を収集する。
- ・インターネットは文献を調べるときに便利であるが、必ず図書館で文献を手にとること。

第2週 文献を読む

- ・文献を精読する。
- ・メモをとりながら読む。
- ・わからない言葉、歴史上の出来事や人物・事項については辞典等で確認する。
- ・必要ならば読んだ文献の参考文献などから関係書をさらに集めて読む。

第3週 内容をレポートにする

- ・メモを参考に文献の内容を再確認する。
- ・メモをもとに文献の内容をまとめる。
- ・レポートの構成を考える。
- ・論理的に記述する。
- ・問題点や自分の意見・感想を記述する。

IV. レポートの作成

- ・2000字程度
- ・パソコンを使用（手書きも可）
- ・設定したテーマを明記する。
- ・参考にした文献を必ず明記する。
- ・「歴史基礎ゼミナールⅠ（東洋史Ⅰ）」（春学期）の評価対象とする。
- ・提出日 平成23年5月9日 2号館6階、歴史文化閲覧室262

◎留年生は平成23年春学期における学年の課題を提出すること。

- ・学習テーマ・学習の方法に関する質問・相談は、担当する小林伸二が以下のEメールで受付をします。メールアドレス：s_kobayashi@mail.tais.ac.jp
- ・4月6日（水）午前11時～12時、2号館7階275教室で、自学・自習課題についての相談を受け付けます。状況に応じて無理せず、出校可能な学生は参加して下さい。
- ・自学・自習課題以外の質問・相談については、学科の学生生活担当の以下の先生でも受け付けます。Eメールで問い合わせるか、または以下の相談日に2号館6階、歴史文化閲覧室262に来て下さい。

原 芳生 メールアドレス：yoshio_hara@mail.tais.ac.jp

白木太一 メールアドレス：t_shiraki@mail.tais.ac.jp

相談日 原 4月5日（火）・11日（月）

白木 4月7日（木）・14日（木）・21日（木）

2年生

I. 学習テーマと到達目標

5月からの授業の準備期間として3週にわたり自学・自習を課題とする。

甚大な被害をもたらした東北関東大震災は、未曾有の歴史的イベントである。中国では古代から水害、旱魃、蝗などの虫害、地震、疫病などいろいろな自然災害が発生した。それは、政治上の混乱や異民族の侵入としばしば関連づけられたが、救済思想を生み出す原動力ともなった。時の政権は互助制度として救荒政策を行い、民間では福祉結社などが活動した。本コースの基礎研究部門への接続として、古代中国の地震の記録を読み、中国社会の一面を理解することを目標とする。

II. 学習テーマの内容

- ・『後漢書』巻16五行志、地震の条を書き下し文にする。
(史料は歴史文化閲覧室262で配布)
- ・後漢時代の災害と社会についてコメントする。

III. テーマ学習の方法

第1週 『後漢書』を読む

- ・『後漢書』五行志、地震の条を読む。
- ・漢文の文法書、漢和辞典などを使う。
- ・書き下し文を作成する。

第2週 文献を読む

- ・後漢時代に関する概説書（『中国の歴史』などのシリーズの該当箇所）を大学・地域の図書館、インターネットを利用して集める。
- ・「後漢時代の災害と社会」の観点からメモをとりながら読む。

第3週 レポートにする

- ・『後漢書』五行志、地震の条の書き下し文を完成させる。
- ・メモを参考に文献の内容を再確認する。
- ・メモをもとにコメント（自分の考え、問題点）を作成する。
- ・論理的に記述する。

IV. 書き下し文・コメントの作成

- ・書き下し文
- ・コメント800字程度
- ・パソコンを使用（手書きも可）
- ・本コース基礎研究部門（春学期）の評価参考とする。
- ・提出日 平成23年5月9日 2号館6階、歴史文化閲覧室262

◎留年生は平成23年春学期における学年の課題を提出すること。

- ・学習テーマ・学習の方法に関する質問・相談は、担当する小林が以下の E メールで受け付けます。メールアドレス：s_kobayashi@mail.tais.ac.jp
- ・4月7日（木）午後1時～2時、2号館7階275教室で、自学・自習課題についての相談を受け付けます。状況に応じて無理せず、出校可能な学生は参加して下さい。

歴史文化学科東洋史・アジア文化コース 自学・自習課題テーマ

3年生

I. 学習テーマと到達目標

5月からの授業の準備期間として3週にわたり自学・自習を課題とする。

3年生からはじまる専門演習は4年次の応用研究へつながる重要な科目であり、卒業論文の論題設定の準備期間としても大切な授業である。本コース専門演習 A「中央アジアの社会・中国哲学」、専門演習 C「中国王朝史と史料」への接続として、東洋史・アジア文化の専門性が身に付く事前学習を目標とする。各授業を展開する上で、基礎的な準備として関係文献の収集と分析を通じて問題点を指摘し、課題を設定することができる。

II. 学習テーマの内容

*各自の履修する専門演習の内容別に学習する。

- ・専門演習 A「中央アジアの社会・中国哲学」（窪田担当）
中央アジアの社会に関する文献を読みテーマを設定しレポートを作成する。
必ず疑問点・問題点を指摘すること。
- ・専門演習 A「中央アジアの社会・中国哲学」（春本担当）
中国哲学に関する文献を読みテーマを設定しレポートを作成する。
必ず疑問点・問題点を指摘すること。
- ・専門演習 C「中国王朝史と史料」（小林担当）
中国古代中世史（夏殷～隋唐時代）に関する文献を読みテーマを設定しレポートを作成する。必ず疑問点・問題点を指摘すること。
- ・専門演習 C「中国王朝史と史料」（宮寄担当）
『清史稿』巻126「河渠志」の書き下し文を作成する。
(史料は歴史文化閲覧室262で配布)

III. テーマ学習の方法

第1週 文献を集める

- ・興味のある該当分野の文献を大学・地域の図書館、インターネットを利用して集める
- ・インターネットは文献を調べるときに便利であるが、必ず図書館で文献を手にとること。

第2週 テーマの設定

- ・文献を精読し、テーマを設定する。

- ・メモをとりながら読む。
- ・わからない言葉、歴史上の出来事や人物・事項については辞典等で確認する。
- ・必要ならば読んだ文献の参考文献などから関係書をさらに集めて読む。

第3週 内容をレポートにする

- ・メモを参考に文献の内容を再確認する。
- ・テーマについてレポートの構成を考える。
- ・論理的に記述する。
- ・疑問点・問題点を記述する。

IV. レポートの作成

- ・2000字程度（宮寄担当分は除く）
- ・パソコンを使用（手書きも可）
- ・設定したテーマを明記する。
- ・参考文献は必ず明記する。
- ・専門演習A・Cの評価対象とする。
- ・提出日 平成23年5月9日 2号館6階、歴史文化閲覧室262

◎自学・自習課題全体についての質問・相談は、担当する小林が以下のEメールで受け付けます。メールアドレス：s_kobayashi@mail.tais.ac.jp

◎留年生は平成23年春学期における学年の課題を提出すること。

- ・学習テーマ・学習の方法に関する質問・相談は、以下の担当教員のEメールで受け付けます。

窪田新一 メールアドレス：s_kubota@mail.tais.ac.jp

春本秀雄 メールアドレス：h_harumoto@mail.tais.ac.jp

小林伸二 メールアドレス：s_kobayashi@mail.tais.ac.jp

宮寄洋一 メールアドレス：y_miyazaki@mail.tais.ac.jp

4年生

I. 学習テーマと到達目標

5月からの授業の準備期間として3週にわたり自学・自習を課題とする。

応用研究、卒業論文作成の事前学習として、各自が考える東洋史・アジア文化の論文テーマを再度検討し、研究書・論文、関係史料・資料の収集・分析を通じて研究史をまとめ、問題点を指摘し、各自の論文の位置づけを論理的に説明することができる。テーマに関連する専門図書館・史資料館や専門書店の情報を収集し、同時に史料・資料の整理を行い、卒論作成の全体像を確認する。今後の論文の章立て、構成といった具体的な作業の準備段階として各自がタイムスケジュールを立てる。

II. 学習テーマの内容

- ・論文テーマに関する研究書・論文の収集と分析
- ・論文テーマに関する史料（東洋史）・資料（アジア文化）の収集と分析
- ・以上の2点を踏まえ、論文テーマに関するこれまでの先学の研究動向（研究史）をレポートとしてまとめる。

III. テーマ学習の方法

III. テーマ学習の方法

第1週 文献を集める

- ・論文テーマに関する文献を大学・地域の図書館、インターネットを利用して集める。
- ・インターネットは文献を調べるときに便利であるが、必ず図書館で文献を手にとること。
- ・研究史に関しては『中国史研究入門』上下（山川出版、1983年）、『中国歴史研究入門』（名古屋大学出版、2006年）、『中国思想・宗教・文化関係論文目録』（中国思想宗教史研究会編 国書刊行会、1976年）等参照。

第2週 文献の精読と史料（資料）の収集

- ・文献を精読する。
- ・メモをとる。
- ・文献等に出てくる史料（資料）を大学・地域の図書館、インターネットを利用して集める。
- ・文献・史料（資料）リストを作成する。

第3週 レポートする

- ・メモを参考に文献の内容を再確認する。
- ・研究動向（研究史）のレポートの構成を考える。
- ・論理的に記述する。
- ・疑問点・問題点を記述する。

IV. レポートの作成

- ・2000字程度
- ・パソコンを使用（手書きも可）
- ・卒業論文の論題（仮題でも可）を明記する。
- ・参考文献は必ず明記する。
- ・応用研究Aの評価対象とする。
- ・提出日 平成23年5月9日 2号館6階、歴史文化閲覧室262

◎自学・自習課題全体についての質問・相談は、担当する小林が以下のEメールで受け付けます。メールアドレス：s_kobayashi@mail.tais.ac.jp

◎留年生は平成23年春学期における学年の課題を提出すること。

- ・学習テーマ・学習の方法に関する質問・相談は、以下の担当教員のEメールで受け付け

ます。

春本秀雄 メールアドレス：h_harumoto@mail.tais.ac.jp

小林伸二 メールアドレス：s_kobayashi@mail.tais.ac.jp

宮寄洋一 メールアドレス：y_miyazaki@mail.tais.ac.jp

歴史文化学科、歴史学科文化財コース 自学・自習課題テーマ

【1年生】※留年生含む 身近な文化財を観察してみよう！

I. 学習テーマの趣旨と到達目標

文化財は大きな博物館だけでなく、わたしたちの身近なところにもあります。そこで、新しく大正大学で文化財を学ぶ準備として、さまざまな文化財に目を向けて観察することからスタートしてみましょう。歴史の中で先人達がつくり、後世に伝えてきたものを、実際に自分の目で見ること、そして調べたことをまとめられるようになることが目標です。

II. 学習テーマの内容

身近にある文化財の一つとりあげ、博物館や史跡で観察し、内容についても調べ、その歴史と観察した感想をレポートにまとめてください。文化財の対象は、仏像、工芸品、埴輪、貝塚、古墳群、城跡など、具体例をあげてください。

なお、担当の先生方のアドレスを示しておきますので、質問等がある場合にはEメールで送っていただいても結構です。

- ・ 仏像、彫刻 副島 弘道 先生 h_soejima@mail.tais.ac.jp
- ・ 工芸、仏具 加島 勝 先生 m_kashima@mail.tais.ac.jp
- ・ 遺跡、出土品 塚田 良道 先生 y_tsukada@mail.tais.ac.jp

III. テーマ学習の方法

第1段階・第一週 観察対象を選ぶ

・ 国立博物館や地元の博物館、または史跡などで興味のある文化財を選び、観察してください。

- ・ 観察にあたっては、ただ見るだけでなく、現地でスケッチをとるなどして、その特徴や現在の状況がどうなっているのかなどの調査記録をとること。

第2段階・第二週 文献で歴史を調べる

- ・ 図書館や博物館を活用して、観察した対象が日本の歴史の中でどのような時代につくりだされたものなのか、歴史辞典や本で調べる。

- ・ ただ読むだけでなく、ノートをとると、より理解が深まります。

※ネットのコピペは今後の学習につながらないので厳禁です！

第3段階・第三週 レポートの執筆

- ・ 調査記録やノートをもとに、自分なりに①観察したこと、②本を読んでわかったこと、

- ③調査の感想、といった三章構成でレポートをまとめてください。
- ・必ず見学した月日と場所（いつ、どこで、何をみたか）を書くこと。
 - ・参考文献については、最後に明記すること。
 - ・一度書いたものは必ず読み直し、文字のまちがいや、文章の流れをチェックしてください。

IV. レポートの指示・評価

- ・ 2000字前後（パソコン可。自筆の場合は四百字詰め原稿用紙5枚）。
- ・ 必ずレポートの題名・学籍番号・氏名を書いた表紙をつけ、ホチキスでとじて提出すること
- ・ 「歴史文化基礎ゼミナール（春学期）」の評価対象とする。
- ・ 提出日 平成23年5月9日（月） 歴史学科閲覧室262へ

※留年している学生は、自分の春学期の学年に対応する課題を提出して下さい。

※この課題全般に関する質問等は塚田良道先生（y_tsukada@mail.tais.ac.jp）が受けております。メールでお問い合わせください。

◎なお、このことについて直接大学に来て相談を受けたいと希望する人のために、下記の日時に先生方が相談を受けますので、お知らせします。

- ・ 4月7日（木）午後13:30～14:30 大正大学巣鴨キャンパス2号館7階 272教室

◎自学・自習課題以外のご質問・ご相談については、歴史学科の学生生活担当の先生でも受け付けます。メールで問い合わせるか、または以下の相談日に2号館6階においでください。

原 芳生 yoshio_hara@mail.tais.ac.jp

相談日 4月5日（火）、11日（月） 午後1:00～3:00

白木 太一 t_shiraki@mail.tais.ac.jp

相談日 4月7日（木）、14日（木）、21日（木） 午後1:00～3:00

【新2年生】※留年生含む 文化財はいかにして伝えられてきたか？

I. 学習テーマの趣旨と到達目標

今回の東北関東大震災は人々の生活に破壊的な被害をもたらしましたが、文化財にも大きな被害が出ています。歴史をひもとくと過去にもさまざまな災害がありました。現在わたしたちの前にある文化財の多くは、先人たちの努力によって後世に伝えられてきたといってもよいでしょう。そこで今日までのこされてきた文化財が、いかにして伝えられてきたのか、保存、修復、あるいは整備といったテーマを掲げ、自主学習にとりこんでください。文化財そのものの研究だけでなく、その保存にも視野を広げることが目標です。

II. 学習テーマの内容

下記の例を参考にして、自分の興味ある文化財を一つ選び、それが現在まで伝わってきた歴史と現状について、図書館・博物館で調べてレポートにまとめなさい。

(例) 加曾利貝塚、埼玉古墳群、法隆寺、平城京、正倉院、中尊寺など

なお、担当の先生方のアドレスを示しておきますので、質問等がある場合にはEメールで送っていただいても結構です。

- ・ 仏像 副島 弘道 先生 h_soejima@mail.tais.ac.jp
- ・ 法隆寺、正倉院など 加島 勝 先生 m_kashima@mail.tais.ac.jp
- ・ 貝塚、古墳群、平城京など 塚田 良道 先生 y_tsukada@mail.tais.ac.jp

III. テーマ学習の方法

第1段階・第一週 調べる対象の決定

- ・ ネットや図書館、博物館などに出かけ、関係する文献を探す。
- ・ 調べる対象が近くにあれば、状況を見て現地調査に出かけ、現状がどうなっているのかなどの観察記録をとること。

第2段階・第二週 文献を読みこなす

- ・ 集めた文献を読み、わかったことをノートにまとめていく。
- ※ ネットのコピーは今後の学習につながらないので厳禁です！

第3段階・第三週 レポートの執筆

- ・ ノートや調査記録をもとに、自分なりに①対象とする文化財の概要、②保存の歴史と現状、③調べてみた感想、といった三章構成でレポートをまとめてください。
- ・ 参考文献についても、最後に明記すること。
- ・ 一度書いたものは必ず読み直し、文字のまちがいや、文章の流れをチェックしてください。

IV レポートの指示・評価

- ・ 2000字前後（パソコン可。自筆の場合は四百字詰め原稿用紙5枚）。
- ・ 必ずレポートの題名・学籍番号・氏名を書いた表紙をつけ、ホチキスでとじて提出すること
- ・ 本コースの基礎研究部門（春学期）の評価対象とする。
- ・ 提出日 平成23年5月9日（月） 歴史文化学科閲覧室262へ

※留年している学生は、自分の春学期の学年に対応する課題を提出して下さい。

※この課題全般に関する質問等は塚田良道先生（y_tsukada@mail.tais.ac.jp）が受けております。メールでお問い合わせください。

◎なお、このことについて直接大学に来て相談を受けたいと希望する人のために、下記の日時に先生方が相談を受けますので、お知らせします。

- ・ 4月7日（木）午後14:30~15:30 大正大学巣鴨キャンパス2号館7階 272教室

【新3年生】※留年生含む 専門演習のテーマ研究

I. 学習テーマの趣旨と到達目標

3年生からは専門演習がはじまります。4年生の応用研究や卒業論文にもつながる重要な科目です。そこで自分の第一テーマとなる専門演習で、興味ある研究テーマを設定し、それに関する専門書や論文を読んでレポートにまとめてください。現在の研究状況を理解するとともに、調べたことを文章にまとめられるようになることが目標です。

II. 学習テーマの内容

専門演習の第一テーマに該当する分野で、自分の興味ある研究テーマを一つ設定し、専門書、もしくは論文を読み、その内容をレポートにまとめなさい。

例) 加曾利式土器、三角縁神獣鏡、埴輪、法隆寺釈迦三尊像、正倉院御物など

なお、専門演習担当の先生方のアドレスを示しておきますので、質問等がある場合にはEメールで送っていただいても結構です。また、担当の先生から個別に指示があった場合は、それにしたがってください。

- ・安藤 孝一 先生 k_ando@mail.tais.ac.jp
- ・副島 弘道 先生 h_soejima@mail.tais.ac.jp
- ・加島 勝 先生 m_kashima@mail.tais.ac.jp
- ・塚田 良道 先生 y_tsukada@mail.tais.ac.jp

III. テーマ学習の方法

第1段階・第一週 調べる対象の決定

- ・ネットや図書館、博物館で、自分のテーマに関係する文献を探す。
- ・文献（コピーでもよい）を収集する。
- ・テーマに関する文化財が近くの博物館や史跡などにあれば、状況を見て現地調査に出かけ、記録をとってもよい。

第2段階・第二週 文献を読みこなす

- ・集めた文献を読み、研究の現状をノートにまとめていく。
※ネットのコピーは今後の学習につながらないので厳禁です！

第3段階・第三週 レポートの執筆

- ・ノートや調査記録をもとに、自分のテーマに関する研究の現状をレポートにまとめる。
- ・必ず最後に参考文献を明記すること。
- ・一度書いたものは必ず読み直し、文字のまちがいや、文章の流れをチェックしてください。

IV レポートの指示・評価

- ・2000字前後（パソコン可。自筆の場合は四百字詰め原稿用紙5枚）。
- ・必ずレポートの題名・学籍番号・氏名を書いた表紙をつけ、ホチキスでとじ提出すること
- ・専門演習（第一テーマ・春学期）の評価対象とする。

※留年している学生は、自分の春学期の学年に対応する課題を提出して下さい。

※この課題全般に関する質問等は塚田良道先生(y_tsukada@mail.tais.ac.jp)が受けております。メールでお問い合わせください。

【新4年生】※留年生含む 応用研究の準備

I. 学習テーマの趣旨と到達目標

4年生になると応用研究で卒業論文の準備に入ります。そこで自主学習では、自分の卒業論文に関する学習をさっそくはじめることとします。自分の卒論テーマを再確認し、自分のテーマに関する過去の研究を整理してください。卒論テーマに関する研究の現状を把握するとともに、自らが取り組むべき問題点をつかむことが、この自主学習の目標です。

II. 学習テーマの内容

自分の卒論テーマに関する過去の研究にはどのようなものがあるか、関係する文献を集め、それを読解し、研究の現状をレポートにまとめなさい。

なお、担当の先生方のアドレスを示しておきますので、質問等がある場合にはEメールで送っていただいても結構です。

- ・安藤 孝一 先生 k_ando@mail.tais.ac.jp
- ・副島 弘道 先生 h_soejima@mail.tais.ac.jp
- ・加島 勝 先生 m_kashima@mail.tais.ac.jp
- ・塚田 良道 先生 y_tsukada@mail.tais.ac.jp

III. テーマ学習の方法

第1段階・第一週 文献検索、収集

- ・自分の卒業論文テーマを再確認する。
- ・ネットや図書館、あるいは博物館などで、自分のテーマに関係する文献を探す。
- ・文献(コピーでもよい)を収集する。※必ず複数以上

第2段階・第二週 文献を読みこなす

- ・集めた文献を読み、研究の現状をノートにまとめていく。
※ネットのコピーは今後の学習につながらないので厳禁です!

第3段階・第三週 レポートの執筆

- ・ノートをもとに、自分のテーマについての研究の現状をレポートにまとめる。
- ・参考文献については、必ず最後にリストを明記すること。
- ・一度書いたものは必ず読み直し、文字のまちがいや、文章の流れをチェックしてください。

IVレポートの指示・評価

- ・ 2000字前後（パソコン可。自筆の場合は四百字詰め原稿用紙5枚）。
- ・ 必ずレポートの題名・学籍番号・氏名を書いた表紙をつけ、ホチキスでとじ提出すること
- ・ 応用研究（春学期）の評価対象とする。
- ・ 提出日 平成23年5月9日（月） 歴史文化学科閲覧室 262 へ

※留年している学生は、自分の春学期の学年に対応する課題を提出して下さい。

※この課題全般に関する質問等は塚田良道先生（y_tsukada@mail.tais.ac.jp）が受けております。メールでお問い合わせください。